㉚ 馬鹿婿の話

余り利口でない若者がいたそうな。

その若者が、家内の実家に、用事があって出掛けて行ったそうだ。そしたら家内のおがさまが喜んで、

「よく来てくなはった。」

と言って、お汁ダンゴを作って、御馳走をしてくれらったど。

いろいろ二人で話をしながら、お汁ダンゴの煮えるのを待っていた時、そのおがさまが流しの方に立たはったど。そしたらその若者は、これ待っていましたとばかりに、煮立ってるお汁ダンゴ鍋に手を入れて、一つつまんで、すばやく口に入れただど、いやはやそれは煮立っていたのだから、熱くて熱くて、たまったもんでながったど。間が悪くて思わず